

# 子育ては投資か

筑波大学名誉教授  
日本学術会議連携会員

宮 寺 晃 夫

経 歴: 1997~2006年 筑波大学教育学系教授  
(この間に人間学類長)

2006~2013年 筑波学院大学教授  
(この間に教育哲学会代表理事)

## 1. 米国の子育て事情

この3月、アメリカの大学に勤める娘に、子どもが生まれました。出産のための入院期間は3日。育児休業は2ヵ月。日本と比べると、かくだと短めですが、アメリカではこれが標準です。それより頭が痛いのは、生後2ヵ月過ぎたばかりの赤ん坊を、どうするかです。

日本の公立の保育園では、世帯収入にもよりますが、だいたい月2万円程度で、子どもを受け入れてくれます。アメリカには、公立の保育施設がありません。すべてが民営で、営利事業です。保育士さんの給料も、施設の維持管理費も、すべて保育料収入でまかなわれます。とうぜん、収益も見込まれています。儲からなければ、だれも保育事業に手をだしません。



■ 娘と夫のデイビットと孫のAkio

出産をひかえた親たちは、それでも施設保育にするか、家庭での子育てにするかを決めなければなりません。働く母親にとって、これは悩ましい選択です。しかし、「保育園落ちた。日本死ね」というような騒ぎは起きません。子育てをどうするかは、親の責任、というのが当たり前とされているからです。

## 2. 保育園を探す

娘と夫のデイビットは、出産前から、近隣の保育園を、いくつか見てまわりました。そのなかで気に入ったのは、1つは、新生児を週5日預けたばあい、保育料が1ヵ月1,523ドル、もう1つは1,540ドルの保育園です。日本円に換算すると、ざっと月16万円です。日本と比べると、とてつもなく高額です。探す範囲を広げれば、もう少しリーズナブルな保育園もみつかるかもしれませんが、1,000ドルを切ると、保育の質も下がります。娘たちは、娘の勤務先からの距離を考えて、とりあえず月額1,540ドルの保育園に、予約を入れたことにしました。

つぎに問題なのは、保育費をどう工面するかです。出産をはさんで、娘たちはいろいろと話し合ったようです。わたしも相談を受けました。けっきょく2人がだした結論は、家で子育てをする、そのためにデイビットは仕事を辞める、ということでした。

## 3. “ミスター・ママ”の誕生

父親が主として子育てを担当するのは、アメリカではめずらしくはありません。そうしたトレンドの後押しもありますが、合理主義的な計算もはたらいていました。

アメリカは、所得税などの税率が高いことで有名です。エンジニアのデイビットも、税や保険料などが天引きされると、手取りは子どもの保育料と同じくらいになります。娘の収入のほうが、すこし高めです。それだけでなんとかやっつけていける、と二人は計算しました。

共働きをつづけても、夫の収入は保育費にまわされます。ですから、残高は同じことです。そこで、娘は大学でのキャリアを継続することにし、夫が子育てに専念することにしたのです。日本流に言えば、「主夫」ということになりましたが、デイビットは自分のことを、「ミスター・ママ」と呼んでいます。

#### 4. 子育てを楽しみたい

デイビットが仕事を辞めることについて、わたしは、スカイプやメールで、くりかえし真意を確かめました。そのたびに返ってくるのは、こういう答えでした。「エンジニアの仕事は、あとでまた続けることができます。子育ての仕事は、いまこのときを逃したら、できません。」

実質のストックが同じならば、自分で好きなように子育てをしたい。少なくとも、集団保育が必要になるまでは、家庭で育てたい。自分の職場は、そのあとであらためて探せばいい、というのです。

そこで、とうめんは夫が育児と家事を担当することにしました。それは、たまたま、夫のほうが仕事を辞めやすかったからにすぎません。大決断というより、ごく自然の流れでした。

#### 5. 教育費をめぐる格差

アメリカでは、どちらかというと、州立大学より私立大学のほうが人気があります。日本のような国立大学はありません。その私立大学ですと、年間の授業料は平均で32,404ドル、日本円でおおよそ350万円です。これはあくまでも平均です。娘が勤めるペンシルバニア大ですと、授業料と生活費で年間67,000ドル（737万円）かかります。日本人の親の平均的な年収を超えています。「アイ



■ “ミスター・ママ”

ビー・リーグ」と呼ばれる東海岸の名門大学は、どこでも同じようなものです。OB、OGや企業からの寄付もありますが、大学の経営は、主として一般学生の授業料にたよっています。

教育費がばかにならないのは、大学だけではありません。保育園のときからそうです。娘たちが予約を入れた保育園ですと、年間で18,480ドル（203万円あまり）かかることになります。なんと、大学の授業料の3分の2です。それを払えるのは、それ相当の階層にぞくする親です。幼児期から、受けられる教育の質に格差ができています。

#### 6. 公共投資でこそ

さいきん、経済学では、教育を未来への投資とみなす考えがさかんです。なかでも、幼児期の教育への投資は、ほかの段階への投資より、リターンが大きいといわれはじめました。長い目でみれば、その通りかもしれません。

しかし、あくまでもそれは、犯罪率が下がるとか、経済成長に寄与するとかの、社会全体にもたらされるリターンです。一人ひとりの親に、投資したぶんのリターンがあるかどうかは、別問題です。だとすれば、教育は公共投資でこそいとなまれるべきです。

子どもの未来を、教育で買おうというのは幻想です。親も子も、リスクの多い時代に生きています。そうならば、いまこのときを、子どもとともにしっかり楽しみたい。そのように決めた娘たちに、エールを送りたいと思います。デイビットが子どもにつけた名前は、祖父であるわたしと同じ“Akio”でした。二つの文化の良い点を受け継いで、生きていってほしい。そういう願いが込められている、ということです。



■ “Akio”

■この「つくばのシニア人材紹介コーナー」は、つくば市が2008年度から推進している「つくば市OB人材活動支援事業」に登録されている研究者・教育者の方々より寄稿を受けて作成しています。現役を一旦引退されてもいつまでも社会発展の牽引力となって活躍をされている方々の研究実績や業務経験の一端をご紹介させていただくものです。